

「友愛」を末永く存続させていくために

一般財団法人日本友愛協会理事長 鳩山由紀夫



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(一財)日本友愛協会

〒112-0002

東京都文京区小石川

1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-mail:yuai@yuaiyoukai.com

http://yuaiyoukai.com

発行人：川手正一郎

編集人：

隔月1回 10日発行

年会費

2,000円

平成二十九年九月十五日(金)及び十月二十七日(金)の二回の理事会において、日本友愛協会の公益法人化が論議された。当初、東アジア協同体研究所との統合に向け準備委員会も設置され論議を進めていたが、論議を進めるなか、今後の友愛存続のためには、公益法人とすることが肝要との結論を得た。結果、公益法人としての申請を行い、来年度は、新法人として出発するという方向で、決議された。

これを受けて、鳩山由紀夫理事長より「友愛」紙面に向け所信表明をいただいた。皆様方には、この所信表明文をお読みいただき、今後に向けてのご理解とご協力を賜りたい。

州は実際に不戦共同体となっている。

私は東アジアが二度と戦火を交えない地域になるために、友愛の理念を東アジアに広めて東アジアを共同体にしたいとの思いで、東アジア共同体研究所を四年前に設立していた。友愛理念の普及という意味で共通の二つの団体統合することに弟たちは同意した。両者の理事会においても、統合を進めて存続を図ることに異存はなかった。

ところが統合の準備を進めていくうちに、スタッフや事務所の所在地と言った具体的な問題もさることながら、大きな課題にぶつかった。それは存続すると決めた以上、友愛の理念の普及を今後五年や一〇年で打ち切ってしまうとは、何の意味もないのに、そうなる懸念はないかと言うことであった。

正直を申し上げて、友愛協会の運営も東アジア共同体研究所の運営も、現在はほとんどが姉などの個人的な寄付によって成り立っていた。私どもはあと五年、一〇年は健在とは思いたい、そんなに長く続くものではない。

一方、言うまでもないことだが、友愛精神は鳩山の家私物では断じてないのだ。逆に言えば、鳩山の私物的存在から解放されなければ、友愛も友愛協会も長く存続しえないのである。即ち、友愛協会は鳩山の血縁から組

織的にも財政的にも、徐々に解放されたとしても存続できるようなしておかなければならないし、そのような仕組みを今のうちに整えておかなければならないという大きな課題である。

その仕組みの一つとして浮上してきたのが、一般財団法人日本友愛協会の公益財団法人化であった。

そもそも自己の尊厳を尊重すると共に他者の尊厳をも尊重する友愛の理念を普及させ、その目的のために諸事業を行うことは極めて公益性の高いことであると信じ

これまでの事業を取捨選択し、新しい事業を創設する際に、さらに公益性の観点から考慮する必要があることは当然であるが、友愛に関わる活動である以上は、もとより公益性は担保されているはずである。したがって、鳩山の個人商店的な色彩さえ強く打ち出さなければ、友愛協会の事業は公益法人にふさわしいと言える。

そして、何よりも公益財団法人化するメリットは、とくに寄付者が寄付をし易くなることである。今後末永く友愛協会が存続するためには、多くの方々から広く寄付が集まるのが肝要である。

あまり知られていないのだが、私が総理のときに「新しい公共」分野を伸ばすために、特定のNPO法人、公益法人、学校法人、社会福祉法人などの公共性を重視する民間の法人に対して、寄付がしやすくなる法律を作った。

例えば公益財団法人に寄付を行うと、そのほぼ半額が税額から控除される仕組みである。優遇には上限があるが、国や自治体に払うべき税金が寄付の半額ほど少なくなるという優遇策である。公益法人化をすればこの特典が得られるのである。この特典を活用することによって、公益財団法人化された「友愛」が鳩山の私物的存在から解放される可能性が生じると信じたのである。

友愛の未来を考えたときに、まずは一般財団法人日本友愛協会を公益法人化することに着手したい。そしてできれば来年度は公益財団法人「友愛」としてスタートさせたい。

それまで東アジア共同体研究所との統合問題は一旦棚にあげておき、公益法人化の後に必要性をあらためて考慮し、必要と判断した際には統合を果たしていきたいと考えている。

友愛時評

▼大番狂わせの勝利から早や一年、トランプ米大統領が初来日した。松山英樹プロを交えて安倍首相とゴルフに興ずる姿を見ても、ほとんど違和感を覚えない。政権発足前に世界中が抱いたあれほどの危惧が嘘のようである。▼といつても、トランプ政権の十カ月余りが順調であったわけでは決してない。政治任用の高官ポストの多くは未だに埋まらず、それどころか「犠牲者リスト」が作られるほど多くの解任者や辞任者が既に生んでいく。公約の一つであった医療保険制度改革法の見直しも頓挫した。自らに批判的な大手メディアを「フェイクニュース」と罵倒し、気に入らない国内外の政治家に対する罵詈雑言もあって、トランプ大統領に対する支持率は過去七〇年で最低の水準だという。「ロシアゲート」疑惑による大統領弾劾の可能性も現実的になりつつある。▼

他方で、TPPやパリ協定からの離脱表明や、シリアへの空爆や北朝鮮との対決姿勢など、外交面では独特の姿勢を貫き、一定の成果を挙げている。何よりも、米国の好景が続いていることが支持率の更なる低下に歯止めをかけている。▼とはいえ、NYダウ平均株価が史上最高値を更新し続け、リーマンショック前の二倍に近づいている現状に対して、暴落の懸念を指摘する声も出始めている。▼日本の株価も遅ればせながら本格的な上昇局面に入り、過去最高の「売り手市場」となっている就職状況は、特に若年層による安倍政権の支持につながっている。▼だが、全てのバブルは弾ける」ともいう。日米両首脳の蜜月ぶりを見ながら、来年の今頃はどんな状況で本コラムを書いているだろうか、と思いを馳せている。(ヒゲ)

永年にわたる植林活動の努力が評価

中国政府友誼奨受賞にあたって

日本友愛協会 常務理事 川手 正一郎

この賞は中国の発展に貢献した外国人に中国政府が授与する最高の名誉賞だそうです。今年は世界各国から五〇人が受賞し、そのうちの一人に私も選ばれました。

私の受賞理由は二〇〇一年からの植林活動に対し、中国政府が自然環境保護に貢献したとして顕彰したよ
うです。

しかし、小生の植林活動は多くの皆様のご協力により実現したものであり、私がこの光栄に浴するのとはなるとも面映く、僭越に思います。

振り返りますと二〇〇一年から今日まで二十八回の植林事業に携わりましたが、その都度中国の全青連の皆さんや日本の友愛のメンバーにご指導ご支援いただき、私はたまたま健康でチームの一員として参加できただけに思いま

そんな経緯を考えますと、この受賞は全青連、友愛の皆さんの受賞であり、私はその代表として式典等、参加できたものと存じています。

また、この植林活動の原
点は日本政府の小渕基金で
あり、小渕基金関係者にま
ずもって受賞の報告と御礼
を申し上げる次第です。

また今日まで私の生活や健康を支えて下さった弊社社員や友人知人の方々にも改めて感謝申し上げます。

授賞式の模様について若干記しますと、九月二十九日午後、人民大会堂で馬副総理が出席され、一人一人に直接表彰状と勲章を手渡され、記念撮影を行いました。

九月三〇日は十六時五〇分から同人民大会堂の広間で李克強総理と全員の記念撮影があり、最前列の出席者だけが李克強総理と二人の副総理に対面し、握手し

ので、その恩恵に与りました。その後李克強総理は全員を前にしておよそ一〇分挨拶し、式典を終りました。

続いて十七時三〇分から同大会堂での国慶節晩餐会に招待されました。この席は八人掛の丸テーブルが三〇〇席あるそうで、習主席、李総理ご列席のもとと世界各国の招待者とともに生まれて初めての大会を体験し、中国の底力に触れた感じでした。

私にとつて植林とは、人の心と心を繋ぐ絆であり、緑は人に幸せと平和を齎すシンボルです。国と国には国境がありますが人の心には国境はありません。来年も中国の皆さんとともに植林できますよう願います。

中国政府友誼奨受賞にあたり、お世話になりましたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

*三面カラー特別掲載写真などの編集の都合で、『友愛』550号のお届けが遅れましたことお詫び申し上げます

外国人への最高の榮譽である「国家友誼賞」の授与式、並びに記念式典、記念晩餐会が開催された。

永年に亘り中国に於ける
植林活動に携わつて来た川
手正一郎日本友愛協会常務

理事は、二〇一七年度の国家友誼賞を受賞した。

九月二十九日、午前中は受賞者全員が滞在するホテルに於いて、各人の専門分野からの意見発表が行われた。午後、川手常務理事は、人民大会堂での授賞式に参加、馬凱副総理より勳章と記念の盾を受けた。

翌日は、再び人民大会堂に於いて、李克強総理より、お祝いの言葉が述べられ、

全員と記念撮影が行われた。その後、人民大会堂において、各国大使など大勢の来賓とともに、国慶節記念晩餐会が開催され、三〇〇名におよぶ大晩餐会場において国際交流の時間が繰り広げられた。

【国家友誼賞受賞国】

アメリカ合衆国(十三名)
・イギリス(三名)・ドイツ(三名)フランス(三名)
・ウクライナ(二名)・ベルギー(二名)・日本(二名)

以下各国一名 スイス・
スウェーデン・スペイン・
南アフリカ共和国・ロシア
・マレーシア・キューバ・
クロアチア・カナダ・オー
ストラリア・イタリア・エ
ジプト・その他ドイツ及び
アメリカ二重国籍)

二十ヶ国・四十一名参加
各国からの受賞者は、厳重
警備の行われている人民大
会堂へ、ホテルから直接チ
ャーターバスで移動。夫婦
同伴が許されているため、
同行の夫人は民族衣装など
きらびやかな衣装に身を包
み、晴れやかな笑顔でバス
に乗り込んだ。夫人が受賞
者の場合は、ご主人が同
伴、笑顔で夫人をエスコ
トする姿が印象的だった。



受賞者自身もスーツ姿で、にこやかな笑顔に溢れている

神戸学院大学／劉幸宇

兵庫県国際交流協会が二
○一七年九月二十六日、一
○月十二日、同協会交流ギ
ャラリーで「豊富多彩な神
戸学院大学の留学生交流」
をテーマとする写真展を
開催した。

同写真展の趣旨は来場者にカメラのファインダーを通して切り取った留学生たちの日本での留学生生活を理解してもらうことである。

同写真展は神戸学院大学
国際交流センター、学生支
援センター、「日本美撮影」
デジカメ部が協力し、写真
パネル一〇五枚を展示して
いた。

来場者からは「日本と世界の距離が一気に縮まった気がする」、「楽しそうなので、僕も留学したくなつた」との感想があった。

日本友愛協会も、「友愛国際写真コンクール」を実施しているが、芸術を通して、カメラでとらえた一瞬の日常を通して、国際的な理解が一举に深まることは、こうした活動をみていると理解できる。言葉が伝えるより多くの情報、気持ちが見る者の胸に直接的に話しかけるのだろう。

多数の写真を展示した神戸学院大学「日本美撮影」デジカメ部は日本人学生、中国人留学生、中国人職員が自発的に活動している国際文化交流団体である。同部の趣旨は多種多様な交流イベントを開催し、学生生活を豊かにし、国際文化交流を促進させることである。



開催期間 2017年9月26日(土)～10月12日(木)
(平成29年) 10:30～18:30(土・日・祝・休館)

開催場所 公益財団法人 兵庫県国際交流協会
交流ギャラリー
TEL:078-230-3262

●主 管：公益財団法人 兵庫県国際交流協会
●共 催：神戸学院大学国際交流センター
●協 力：神戸学院大学「日本美術展」デジタルラボ・留学生会
●お申し込み：公益財団法人 兵庫県国際交流協会 海外事業推進課 TEL：078-230-3262

写真展の開催を知らせるポスター
過去の留学生交流会の様子など、楽しい内容にあふれている

祝

川手正一郎常務理事 中国政府友誼賞受賞

李克强总理会见2017年度中国政府友谊奖获奖外国专家合影

2017年9月30日 人民大会堂 大北照相



最前列 右から4人目 川手正一郎常務理事



人民大会堂での 授賞式に出席



- ・授賞式・晩餐会の招待状(左上)
- ・人民大会堂の一室にて(中央上)
- ・9月29日に開催された受賞者による意見発表会(中央中段)
- ・川手正一郎常務理事(左下)
- ・勲章と勲章の箱(左下)

その他の写真キャプションは二面に



友愛 ほんだな

『脱 大日本主義』 「成熟の時代」の国のかたち 鳩山友紀夫 著



発行：平凡社 刊／体裁：新書版 240ページ
／価格：800円（税別）
＊ご希望の方は事務局までどうぞ

鳩山由紀夫理事長の最新執筆本『脱 大日本主義』は、上梓されて以来、大きな反響を呼んでいる。本書には、鳩山由紀夫理事長がこれまで何を思い、何のための活動であったかが、知られざる事実とともに、記されている。何より、鳩山由紀夫理事長が自らが大切にしている思い、友愛の理念、戦争のない平和な世界、そして独自の文化を持つ日本という国への熱き思いが述べられていることが、心を打つ。

「文明としての日本」などの角度を変えた美しい表現も随所にあり、読み応えがある。

本書に寄せて、年齢も立場も違う四名の方々より、それぞれの切り口での読後感をいただきました。これをご紹介します、本書の紹介とさせていただきます。

（H）

井田 安信
五年に一度の中国共産党大会が開催され、習近平総書記が経済、軍事、文化など広い分野で世界の頂を目指し、米国と並び立つ強国となる長期構想を表明した。

ちょうどその時、『脱大日本主義』を読ませていただき、世界、そしてアジアにおける日本の位置・歴史を確認するとともに、未来に向けて有効な

構想や政策を確認することができた。

行き過ぎたグローバルイズム、暴走する金融資本主義により、格差社会が拡大し、富の偏在が顕著になり、貧困問題が深刻化しつつある米国や日本。市場至上主義にブレーキをかけ、政府が国民生活を守るために「友愛」の精神が必要であると痛感できた。

対米従属路線から脱却

し、東アジア諸国と連帯することこそ、これからの日本をとるべき道であるとする鳩山先生の「東アジア共同体構想」は、国民国家を否定せず、国家の伝統を尊重しながら、グローバル化に対応することを目指している。

米軍基地問題や地位協定の不条理を垣間見ている今、我々は新しい日本の自立と共生の道を考える必要がある。

人口減少と低成長経済が続く中で、日本という国はいかにあるべきかを説いた鳩山友紀夫先生の提案をまとめた一冊。わが国のあるべき姿を表現したもの、「成熟国家」構想であり、それは「成長の時代から成熟の時代へ」「成長戦略から成熟戦略へ」を意味する。即ちかつての高度経済成長はもはや望めず、少子化に伴う人口減少と社会の

高齢化が急激に進んでいるのだから、日本は世界に冠たる偉大な国でなければならぬといった大國主義を早く捨てなさいということ。それは例えば国連安保理の理事国を目指さないこと、原子力発電を止めること。これこそが「脱・大日本主義」であると述べられている。

この本から再認識したのは、先生は豊富な知識、高度な理性、国家観を持

っていらつしやるということ。これを鳩山内閣に実現されていれば、今とは違った国の形になっていたであろうと思われるが、内閣は短命に終わり、理念が実行されなかったのは非常に残念だ。

こうした首相時代の「失敗」した出来事も、率直に第三者的な視点で語っていらつしやることも非常に興味深かった。

ペンネーム…「S」

攪上 哲夫
東大工学部卒業、スタンフォード大学工学部博士課程修了、JALの元総理、鳩山友紀夫氏の上梓した『脱大日本主義』を、「文章表現」の角度から考察する。

本作品は、三〇を超える著者の文献、発言を直接、間接に引用、学識教養豊かな鳩山氏の論考である。「人間はその存在が

尊いのであり、つねにそれ自体が目的であり、決して手段であってはならない」と、友愛の理念が、『脱大日本主義』の底流に流れている。

本書では、例えば、「株も預貯金もない世帯の割合が、一九九〇年代には数パーセント位だったのに、今では三五％になつています。三世帯に一世帯は無資産階級になつていくわけです。子ども

の貧困率は十六・三％に上ります。

教育格差により低所得層や貧困層が世襲化される恐れがあります。」と、客観的な事実を積み重ね、理系出身の元総理ならではの論が随所になさられている。

冒頭の略歴が如何なく発揮された「文章表現」としても一流の作品である。

この書に接したおかげで、敗戦後の日本において、政治の枢要部を支配してきた対米従属構造の在り方が、具体的な史実とともに理解できました。

そして、この国のリーダー達が「自立」を志向すること自体、大変難なことであるにもかかわらず、鳩山政権が「自立」の実現を目指し、根深い従属構造に真正面から挑んでくれたことは、我々

国民にとって、その歴史的意義をかみしめて次の時代の礎とすべき重要な現代政治史のひとコマであると改めて実感しました。

自立なき国に生きる者は、右往左往させられ続けることに甘んじるほかないのでしょけれど、少なくとも自分の生き方は、可能な限り「共生」を念頭に置いた「自立」をめざす日常を心がけた

いと思いました。そして、友愛の理念と実践について、先生はじめ先輩らの薫陶を受けさせて頂けることを、改めて幸いに存じました。

ペンネーム…うみ



機関紙『友愛』にご投稿ください！

機関紙『友愛』に皆様のご投稿をお待ちいたしております。内容は、ボランティア活動の報告、地域の名物の紹介、季節のお便り等々、何でも結構です。ご自慢の写真も大歓迎です。皆様の『友愛』に奮ってご投稿ください。詳しくは事務局までお問い合わせください。

締切り：特に設けません。いつでもご投稿ください。掲載ご希望の月がある場合は、2ヶ月前に原稿が届くようお願いいたします。

要領：手書き原稿・データ原稿・メールでの投稿何でも対応可能です。
写真：紙焼き（カラー・白黒）・デジカメデータどちらでも。

時事川柳 服部迪夫 作

- ―特別展 運慶の五仏像から見えるもの―
- ―横浜・ラミレス監督が緻密な野球実践し―
- ―藤井四段 進路でも長考をする十四歳―
- ―カズオ・イシグロ氏 日英に文学の橋架けた人―
- ―団体の強み 守備範囲広いノーベル平和賞―
- ―ウガンダ観光大使に「PPAP」まだまだ世界共通語―
- ―養殖 近大のマグロ海外雄飛する―
- ―9秒8 桐生風列島縦断日本晴れ―
- ―報道合戦 選挙戦出口調査という魔物―

雑感集

◆人間関係は言葉から始まり言葉で終る。言葉は人と人を繋ぐ絆であり、使い方によっては人を救ったり、人を貶めたり、武器であったり、薬であったり。喜びも悲しみも全ては言葉次第。行く言葉が美しければ、かえる言葉も美しい。やさしい言葉が欲しければ、やさしい言葉を発しなさい。そんな言葉を何処かで聞いたことがある。言葉は命であり、人格でもある。

うっかり発言か意図的発言か不明だが「排除」の一言で流れが変わった。一度発した言葉は戻らない。「物言えば唇寒し秋の風」

「口は人を励ます言葉と人に感謝する言葉のために使おう」腰塚勇人 （K）

◆つい先頃まで、青々としていた木々の葉が、気がつくとなすっきり色づき、「あら」と思いました。木枯らしも観測され、秋と言うより初冬に近いのだと改めて思いました。「秋」はどこへ行ってしまったのでしょうか？ 暑い暑いと言っていたら、急に寒いになったような今年の天候です。それとも私が、周りを見る余裕がなくて、秋を見逃したのかしらん？ そう言えば、きれいなわし雲が、空一面に見られた日もありません。でもやっぱり、秋が少しない。温暖化の影響でしょか？ 軽井沢友愛山荘のモミジ、今年はどうな具合でしょう。一本の樹が、赤、黄、橙と色づく見事な樹です。秋を観に行こう！（も）